



なぎがまCSだより

「restart」の一年

なぎがまコミュニティ・スクール委員長

本山公之



能登半島地震において被災された皆様、お亡くなりになられた方々に心よりお見舞いとお悔やみを申し上げます。今年度は南小下中の子どもたちも先生方も「restart」、全校でのびのびとした学校生活が始まった事大変うれしく、楽しみにしています。

本年度はなぎがまCSの活動もコロナ禍前の活動が徐々に出来るようになりました。学校とも相談し子どもたちの要望に答えながら各団体の皆様に様々な支援をして頂きました。

皆様に支えられて

下諏訪南小学校長 田中直紀

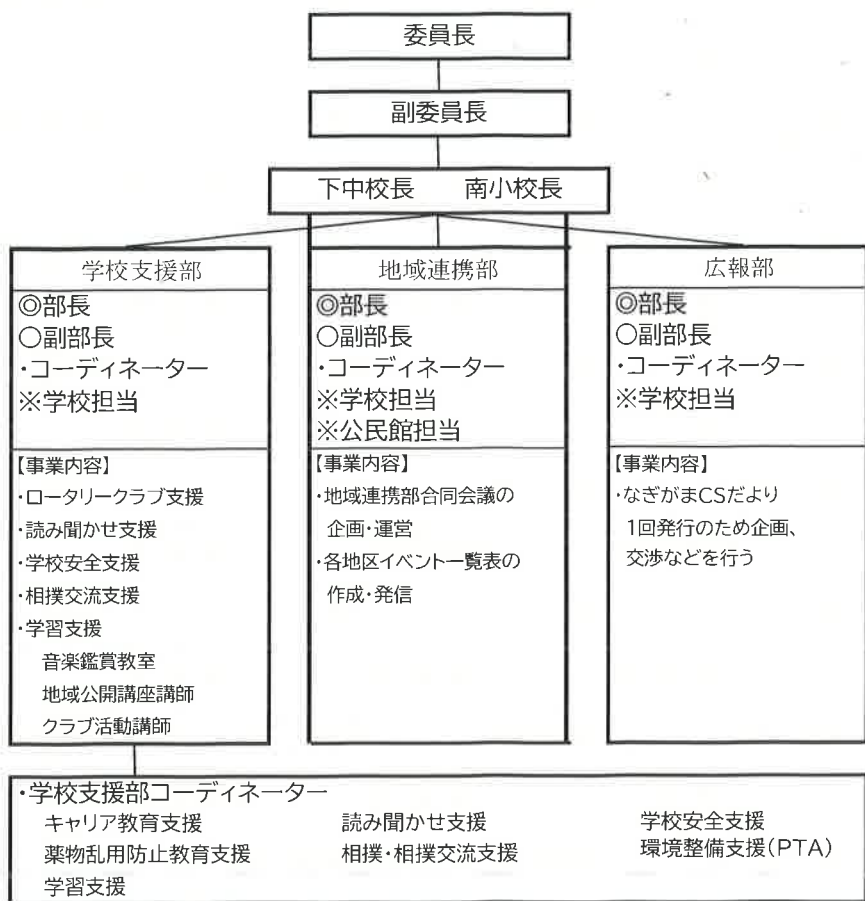


本年度は、今までできなかった校外の方々との交流学习ができるようになりました。

「地域講師に学ぶ」では、それぞれの学年で、ものを作ったり体験をしたりお話を聞きしたりしながら、子ども達は楽しみながら多くのことを学びました。2年生の凧講座では、一人一人がダイヤ凧を作りました。そして、作ったばかりの凧を校庭で揚げました。どの子の凧も、青空にぐんぐんと揚がっていききました。「どの子が作った凧も必ず揚がるように工夫しているのです」夢中になって凧揚げをしている姿の根底には講師の小口さんの想いがありました。どの子も楽しめるように、どの子も学べるようにと子ども達を想い、ご準備いただいた講師の先生方のお陰で、どの学年も充実した学習となりました。

本年度も、子ども達の安全・安心や学校の諸活動をなぎがまCSの皆様を支えていただきました。今後も、子ども達の健やかな成長のために、よろしくお願いいたします。

令和5年度 なぎがまコミュニティ・スクール組織



コロナも5類にはなりましたが、インフルエンザの蔓延、天災による災害と先生方、保護者の皆様の不安は尽きないかと思えます。12月、4学年では防災講座が開催されました。日々忘れがちな防災対策、この機会に家庭でも防災について話合せて頂けたら幸いです。これからも学校、地域、保護者と連携し可能な限り子どもたちを支援し学校と関わって行きたいと思えます。そして支援がより充実するよう、地域の皆様の一層の参加協力を改めてお願いしたいと思います。

学校支援部 ルポ



南小

本年度開講の「地域講師に学ぶ」の講座です。

- 1年 昔の遊び講座
- 2年 凧講座
- 3年 手品講座
- 4年 防災講座
- 5年 キッズヨガ
- 6年 戦時下の体験を聴く会

2年 凧講座

地域の小口峯一さんを講師にお迎えし、「ダイヤ凧」の作り方を教わり、一人一つずつ自分の凧を作りました。凧ができあがると、子どもたちは早速校庭に出て、凧あげにチャレンジしました。凧が風を受けて高く飛び様子を見たり、糸から伝わる手応え感じたりしながら楽しめました。小口さんは、デモンストラーションで鳥の形の凧をあげて見せてくださいました



ダイヤ凧作り



4年 防災講座

下諏訪町防災ネットワーク「新聞紙で作る防災グッズ」講座。身近にある新聞紙で「ゴミ箱」や「メガホン」「スリッパ」「カレール」皿「防寒グッズ」など、いざというときに役に立ついろいろなグッズの作り方を教わりました。折り紙感覚で楽しみながら、防災についての関心を高める機会となりました



新聞紙ゴミ箱作り

3年 手品講座

下諏訪マジック愛好会の皆さんが、楽しいマジックを披露してくださいました。カレンダーの中から選んだ日にちを当てるマジックや、風船に針を突き刺しても割れないマジック、何も入っていない紙袋の中から次々に花がとび出すマジックなど、不思議でドキドキワクワクするマジックに子どもたちは釘付けでした。最後に、子どもたちもできる輪ゴムを使ったマジックを教えていただきました。



マジック

6年 戦時下の体験を聴く会

三井章義さん

戦時下の下諏訪町の子どもの生活について。太平洋戦争当時小学生だったという三井さんの体験談を、子どもたちは自分の生活と重ね合わせながら聞き入っていました。講演の最後、三井さんから、今世界で起きている戦火の悲劇と重ねて「戦争は愚かだ、殺し合ってもよいことではない。自己を生きるために他者を排することはいけないこと。人の叡智で、人類、地球上の全てを大切にしていけることが必要」と、熱いメッセージを受け取りました。



下中

読み聞かせの時間

7月5日 地域ボランティアの皆さんによる読み聞かせ。3年生の教室では、少しでも涼しくなるようにと「おいで...」(有田奈央 文・軽部武宏 絵)を読んでいたできました。公園近くのトイレは幽霊が出るという。あゝ、慌ててトイレに入った。そして手を洗っていると、後ろの方から「ここにいるよ...」と声が...。背筋がゾクゾクとするお話です今年も年間8回対面で実施できそうです。



読み聞かせ・家庭科 ボランティアさん募集しています

保護者の皆様のボランティアさん大歓迎です。やってみたい方学校へお知らせください。

家庭科 ボランティア

ミシンは何かとトラブルがあるが、補助に入っていたらきとても助かっている。生徒も、先生が2人(3人)いるようで、聞きやすいし、とても助かるという生徒の声があります。

10/23、1校時3年生の家庭科。今年もトートバッグづくりの季節です。ミシンを使っている学習。毎年夏休みに専門業者による整備点検を行っています。何かとトラブルが多いもの。ひどいときは、ミシンの調整で1時間が終わってしまうなんてことも。そこで、地域のボランティアさんをお願いしています。生徒たちにとってはミシンの先生が一人増えた感じで、気軽に質問もできる環境です



地域連携 ルポ



湖畔清掃

学校支援部 萩田 均さん

本年度は、9月9日諏訪湖清掃を実施しました。(10月は雨天中止)

9月9日土曜日午前7時から諏訪湖博物館に集合して、湖岸清掃をしました。特に、本年は県の諏訪湖創生ビジョンの湖周をゴミ調査する「第4回まるまるゴミ調査」を湖周4会場に合計170名あまりの人数と、下諏訪会場は、諏訪湖ロータリークラブメンバー20名、湖浄連7名、下諏訪中学校の生徒66名と先生4名の参加により97名の参加によ

り盛大に実施しました。(中学校は校内事業と重なり不参加。)

約1時間の諏訪湖清掃を終了後、博物館駐車場においてゴミ調査をすることにより、きれいな諏訪湖を実現するため、どんなごみが多いのか、何が問題であるか、どのように対策し、解決するかをグループ毎に話し合い発表をしていただきました。

各班的調査報告と対策、解決策についてグループディスカッションを実施して、発表会をしました。中学生の斬新な切り口の解決策の発表に大変感動しました。今後も、地域の大人と小中学生の共同事業に大変勇気づけられました。ありがとうございました



警察ボランティア協会

藤森純夫さん

下諏訪町では十二名が活動しております。特別な資格は不要で民間人で構成されています。

ながいながいCS学校支援部の活動の中で学校安全支援として小学生の見守り活動を行っています。

四月に入學した一年生の下校時の付き添いや、校外学習や遠足への付き添い、ランニングの試走・本番の交通安全見守りです。諏訪警察署による子供たちの地域安全運動の啓発活動や合同街頭補導パトロール、JRの電車車内における補導活動も行っていきます。

地味な活動ではありませんが、小学生の見守り活動では、自分の孫や子どもと接するような気持ちで見守り、子どもの元気な声で「ありがとうございます」「こんにちは」の挨拶が活動の支えになっています。今後も、「地域の子どもは地域で守り育てよう」の意識を持って取り組んでまいります。



地域のお祭りに参加

四年間の厳しい時を経て今年 は町内でやっと地域のお祭りが開催されました。

鷹野町では長持ち・笠踊りがお披露目され、お舟祭りパレードに参加しました。

地域の指導者の皆様に習い、久しぶりの練習を重ねた後の子ども達の笑顔が輝いていました。



赤砂地区では道祖神祭が子どもも参加でにぎやかに催されました。

以前より村祭りに合わせ、中学生に大型灯笼の制作と、小学生に道路わきに飾る小型の灯笼の制作をしてもらっています。また、村祭りの大切な主役は児童生徒です。

赤砂には100名を大幅に超す児童生徒がいます。子どもたちの行動が把握できることは学校の事業と、事故防止の観点から大変有効と思います。地域連携はそのための必要なこととです。子どもたちの笑顔をつくり、支えるためにこれからも連絡と連携をよろしく願います。



荒汐部屋が やって来た

四年ぶりに荒汐部屋の下諏訪合宿が行われ、南小学校の校庭土俵での稽古や地域での交流会が催されました。

南小学校では六月一五日、相撲交流。力士の皆さんに体当たりでの相撲体験をすることができました。

体育館に作られた、二つの土俵の上で、四股の踏み方を習い、グループで力を合わせて力士に体当たり、思い切り押しまくって土俵から押し出す。全校の子ども達が取り組みをしました。

子ども達の感想

お相撲さんはめっちゃ大きくて、強くて僕たちが何人もでぶつかってやっと勝つことができました。押ししても、押ししてもお相撲さんは押し返してきて、勝てなかった。



四股を踏んで



おすもうさんは大きかったよ



押しでも押しでも!



立ち会い!!

夢いきいき講演会

四年ぶりの荒汐部屋との交流で下諏訪中学校では、荒汐部屋親方と、若元春・荒篤山・大青山・丹治・常川・広瀬・綿谷が訪れ自身の相撲についての思いを話して頂きました。

若元春は、相撲家族の中で、「目標を立て、達成のためには諦めないこと、自分の周りの人と比べずにやり方を変えてみるなどして、絶対にクリアする」とやり抜いた事。

大青山は、モンゴルから「中国以外の世界をみたい」と来日し、日本語・相撲を学び、目標のために辛抱・我慢を経験。心折れずに乗り越えて、前向きに生きて、初土俵を叶えたという。



若元春関



親方のお話

丹治は、「好きなことに進んで」という母の言葉で、小学校四年生の時に「相撲をやる」と決めて中学卒業して入門して、精進している。

力士達の経験や、家族や先生など周囲の方々の温かい支えなどが語られ、生徒たちは、真剣な面持ちで聴き聞いていました。

聴講後の感想

若元春関が、『目標を達成するためには、絶対諦めない!強い心を持つ』と 教えてくれました。すごい事だと感じました。お相撲さんはとても大きかったです。

今後このような交流ができますように、荒汐部屋の皆様、世の中が安全で、平穏であることをお願いします。



力士たちのお話には勇気をもらいました

四年ぶりの合宿再開ということで、これまで 毎年 荒汐部屋の学校交流をお世話してくださっておられる 関真知子様 到下諏訪合宿の経緯をお聞きしました。

相撲コーディネーターさんのお話

関真知子さん

荒汐部屋の後援会会長・会長夫人として尽力されていた友人と「下諏訪の子供たちと力士たちの交流する場が持たないか」教育長に相談しました。

「子供達には『本物と』触れ合うことがとても素晴らしい経験になる。是非やろう」と当時の蒼国来関にお願いして下諏訪町の学校交流が始まりました。

この交流を大事に思ってください、学校側の希望に沿いながらお部屋の裏方として走り回って下さるお二人のお力添えによりこの交流は実現しました。また、大相撲諏訪湖場所や荒汐部屋下諏訪合宿の実現にも繋がっています。

コロナ禍での休止もありましたが荒汐部屋 力士たちの活躍でマスクミの注目度が上昇し、交流のオフアアが増えていると聞いています。「お相撲さんが学校に来ること」は「特別」なことで、当たり前ではないですね